

はじめに

本書は、科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））「中途失明者の個に応じた最適点字サイズ評価と点字触読指導プログラム及び教材の開発」（平成13年度～15年度）の研究成果の一つである。この研究は、一旦普通文字を獲得した後に視覚障害となった者の点字触読能力の向上に焦点をあて、個に応じた最適な点字サイズと指導プログラム及び教材の開発を目指したものである。特に指導の実践的な場での活用を考え、盲学校やリハビリテーションセンター、点字図書館等で実際に中途失明者の点字指導に当たっている方を対象とした「中途失明者の点字指導に関する学習会」を立ち上げ、その学習会で、指導プログラムや教材等の検証を行いながら研究を進めてきた。具体的な研究内容については、本書の他に「研究成果報告書」を作成しているのでそちらも合わせて参照していただきたい。この中の「第3章 指導法及び教材」でいくつかの指導法や教材について触れている。本書の指導法や教材についても、これらの一つであると考えており、個々の中途失明者の実態やニーズ、到達目標に合わせて、選択・組み合わせ、また工夫しながら活用していただければと考える。

本書の内容は、日本盲人社会福祉施設協議会リハビリテーション部会の協力を得て、「中途視覚障害者点字指導担当者研修テキスト 点字指導マニュアル・教材」（日本盲人社会福祉施設協議会リハビリテーション部会編）を基にしながら、学習会等を通して検討を重ねてきた。この検討の中では、指導者が晴眼者の場合と点字使用者の場合との指導マニュアルについても話題となった。実際の学習会においては、両者に分けて実習を試みてきた。しかし、今回のまとめでは、指導者が晴眼者であることを前提としてマニュアルを作成した。そして、解説だけではなく、より分かりやすくするため、ポイントごとに指導の実際場面をビデオ収録し、CDに収めた。また、教材のヒント集「おもしろ教材集」の作成も試みた。なお、これら教材の点訳電子データをフロッピーに収め、活用の便をはかった。指導者が点字使用者の場合についての指導マニュアルの必要性もあるが、これについては今後の課題としたい。

本研究の成果が中途失明者の点字習得の一助となれば幸いである。

平成16年3月
独立行政法人国立特殊教育総合研究所
研究代表者 澤田真弓

研究組織

研究代表者

澤田真弓 独立行政法人国立特殊教育総合研究所視覚障害教育研究部盲教育研究室主任研究官

研究分担者

大内進 独立行政法人国立特殊教育総合研究所視覚障害教育研究部盲教育研究室長

中野泰志 東京大学先端科学技術研究センター特任教授

研究協力者

原田良實 名古屋市総合リハビリテーションセンター

管一十 日本盲人会連合

藤野克己 視覚障害者生活情報センターぎふ

立花明彦 静岡県立大学短期大学部社会福祉学科

松谷詩子 日本点字図書館

伊藤和之 国立身体障害者リハビリテーションセンター更生訓練所理療教育部

田辺正明 日本ライトハウス視覚障害リハビリテーションセンター第3訓

小林貞良 福岡市立点字図書館

猪野孝子 元名古屋市総合リハビリテーションセンター

正井隆晶 奈良県立盲学校

吉田道広 熊本県立盲学校

研究協力機関

日本盲人社会福祉施設協議会リハビリテーション部会

目 次

本書の特徴と使い方	-----	1
I. 中途失明者の点字触読指導マニュアル		
指導を始める前に	-----	5
点字触読内容一覧・記録表	-----	8
ステップ1	-----	10
ステップ2	-----	24
教材及び指導上の注意事項	-----	26
ステップ3	-----	32
ステップ4	-----	36
ステップ5	-----	40
ステップ6	-----	44
ステップ7	-----	48
ステップ8	-----	52
ステップ9	-----	56
ステップ10	-----	60
ステップ11	-----	64
ステップ12	-----	68
II. おもしろ教材集		
おもしろ教材集	-----	73